「ＡＩ問診」来月から

三豊・永康病院が県内初

三豊市詫間町の市立永康病院が2月から、人工知能（ＡＩ）を活用した「ＡＩ問診」を導入する。患者がタブレット端末に症状を入力すると、電子カルテにデータが反映される他、入力内容からＡＩが病名を推測。医師業務の効率化や患者の待ち時間の短縮につながる上、医師と患者が対面で話す際、基礎情報のやりとりが省けるため、対話時間が十分に確保できるようになるという。市によると、同様のシステムは県内の病院で初めて。

「ＡＩ問診」で使用するタブレット端末。入力した病状が電子カルテに反映される＝三豊市詫間町、市立永康病院

ＡＩ問診は、２０１７年設立のベンチャー企業「Ｕｂｉｅ」（東京）が提供するサービス。これまでに全国の１５０カ所以上の医療機関が採用している。

患者が待合室にいる間に、タブレット端末に「頭が痛い」「熱がある」などと入力すると、「どのように痛いか」「発熱はいつからか」など、病状に合わせた質問と選択肢が順々に画面に表示される。質問への回答は電子カルテに自動的に反映され、医師はその内容を見ながら患者と面談。初診でも診察がスムーズに進む上、医師のカルテ作りの手間も省けるという。

待ち時間短縮も

永康病院は12の診療科があり、病床数は約１６０床。ＡＩ問診は内科と整形外科に導入する予定で、担当者は「最新のシステムを生かし、充実した医療サービスを提供したい」としている。

掲載元：四国新聞　2020 年 1 月 24 日付